

T-780 取扱説明書

T780-z-2203

お買い上げありがとうございます。
ご使用前に本取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱い
下されますようお願い申し上げます。
本取扱説明書はお手元に保管して下さい。

- 印刷による制限のため本取扱説明書中の図が実際の表示と異なる場合があります。
- 本製品によって生じたいかなる支出・損益・その他の損失に対して何ら責任を負いません。
- 本取扱説明書を製造者の許可なく変更・複製することを禁じます。

製品仕様 (改良のため予告なく変更する場合があります。)

- 時間精度: 平均月差 ±30 秒以内 (気温 25°C で使用した場合)
(電波時計による時刻修正を行わない場合)
- 表示精度: ±1 秒以内 (電波受信による時刻修正の直後)
- 使用温度範囲: 0 ~ +40°C ※結露なきこと
(外觀 / 機能に支障無く、連続使用可能な温度範囲)
- 使用推奨電池: 単3形アルカリ乾電池 (LR6 1.5V) 2個
- 電池寿命: 約 10 ヶ月 (単3形アルカリ乾電池2個を使用し、1日にアラームを30秒、自動点灯を10時間使用した場合)
- 電波受信: 40kHz/60kHzのどちらか受信しやすい電波を受信し、
現在時刻に合わせる
●自動受信 (最多 3回 / 1日) ●手動受信
- 電波受信状況表示
- 時刻表示: 12時間制表示、または24時間制表示
- カレンダー表示: 2000年1月1日 ~ 2099年12月31日 (フルオート)
- 温度計: 表示範囲 0 ~ +50.0°C ※0°Cより低いとLL.L、
+50.0°Cより高いとHH.Hを表示
精度 ±1°C (1 ~ +30.0°Cの範囲)
- 湿度計: 表示範囲 20 ~ 95%RH (%RHは相対湿度の単位です)
※20%RHより低いとLL、95%RHより高いとHHを表示
精度 ±5%RH (常温時、41 ~ 70%RHの範囲)
- アラーム: 電子音 (1分間オートストップ)
- スヌーズ: 間隔任意設定 (5 ~ 60分) / 無制限繰り返し可能
- ライト機能
- 自動点灯機能
- 環境目安表示: 快適 / インフルエンザ / 熱中症 / 乾燥

ライト機能

本体上部のSNOOZE/LIGHTボタンを押すと、ライトが約4秒間点灯します。

温度湿度表示について

- 本製品は工業用(業務用)計測機器として使用する目的で製造されたものではありません。温度湿度表示機能は、センサーが本体内部に設置されているため、表示が安定するまでに時間がかかる場合があります。
- 他の製品、温度計・湿度計との誤差が発生する場合があります。
- 使用温度範囲を超えた場合、故障の原因となりますので、ご注意ください。

環境目安表示について

温度と湿度の数値から、現在の環境状態を表示します。
[快適/インフルエンザ/熱中症/乾燥]
※温度と湿度の数値によっては、何も表示しない場合があります。
※環境目安表示は、あくまで空調や体調管理の目安です。表示により発生の有無を断定するものではありません。公的機関から発表される「注意」「警報」などとは一致しない場合があります。
※本製品はインフルエンザ・熱中症を完全に防止できる製品ではありません。
※本製品は、商取引や証明には使用できません。また、医療及び業務用製品ではありません。

液晶表示について

- 液晶表示は角度により見えにくくなります。
- 温度が低くなると液晶表示の反応が遅くなることがあります。
- 0 ~ +40°Cの温度範囲を超えると、液晶表示が見えにくくなることがあります。
- 液晶表示板は5年を過ぎるとコントラストが低下して、表示が見えにくくなる場合があります。
- 液晶表示が部分的に黒くなる場合がありますが、静電気による一時的な現象です。しばらくそのままにしておくと、元に戻ります。

電池の交換について

- 電池容量が少なくなると、液晶表示が薄くなったり、歪んだり、アラーム音が小さくなったりします。このような場合は速やかに同じ種類の新しい電池に2個同時に交換して下さい。
- ※古い置き電池を使用した場合、乾電池に示されている「使用推奨期限」や保管状態により電池寿命が短くなる場合があります。

電波時計について

電波時計とは
標準電波を受信して自動で時刻を修正する機能を持つ時計です。
※電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。

標準電波とは
情報通信研究機構 (NICT) が運用している時刻情報をのせた電波です。標準電波送信所は、福島県の「福島局: おたかどや山標準電波送信所」と、佐賀県と福岡県の県境にある「九州局: はがね山標準電波送信所」の国内2か所にあります。
※標準電波の時刻情報は、およそ10万年に1秒の誤差という精度の「セシウム原子時計」によるものです。

標準電波の送信停止について

標準電波は毎時15分と45分から各1分間は一部の時刻情報の送信が中断されます。また、送信所の定期点検や落雷などの影響により停波(送信停止)することがあります。標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

日本国外でのご使用について

本製品は、日本の標準電波以外は受信できません。海外で使用した場合、ご使用になる場所の条件により日本の標準電波を受信したり、ノイズにより誤った日時を表示する場合があります。あらかじめご了承下さい。

電波の受信範囲について

送信所からおおむね半径1000kmとされています。

※電波を受信できない場合は、
内蔵クォーツの精度で計時します。



電波を受信しにくい環境

次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

- 工事現場、空港の近く、交通量の多い場所など電波障害の起きやすいところ
 - ビルの中、ビルの谷間、山など電波を遮るものの近く
 - 鉄筋、鉄骨の建物の中や地下
 - 金属製の雨戸やブラインドの近く
 - 高圧送電線、ラジオやテレビの送信所の近く
 - 自動車、電車、飛行機などの中
 - 家電製品やOA機器、蛍光灯などの照明器具の近く
 - スチール机などの金属製家具の上や近く
 - 朝・夕の時間帯や雨天のとき
- ※電波障害などにより誤った電波を受信し、時刻を誤表示する場合は、リセット操作をして深夜の時間帯や使用する場所を変更してご使用下さい。

標準電波についての詳しい情報は「情報通信研究機構」のホームページ内の「日本標準時グループ」を参照して下さい。

情報通信研究機構 ホームページアドレス <https://jjy.nict.go.jp>

受信の状態について (電波受信状況表示と受信マーク)

- 受信中(電波を探している状態)です。
電波状況が 良い環境
- 受信に成功して時刻/日付修正を終了しています。
※次の受信開始まで点灯し続けます。
- 受信に失敗して終了しています。
※次の受信開始(点滅)まで、表示されません。

自動電波受信機能について

本製品は、時刻を修正するために、毎日、内蔵プログラムにより自動電波受信を行います。電波を受信できない場合、内蔵クォーツの精度で計時し、次の自動受信時間に再び電波受信を行います。

手動受信機能について

電波受信が終了(受信マーク が点灯、または消灯)しているときに受信ボタンを2秒以上押し続けると、電波受信を開始します。
※電波受信中に受信ボタンを2回押すと電波受信を終了します。

リセット操作について

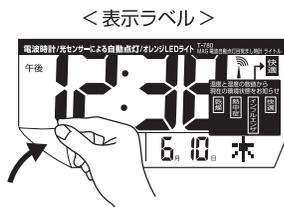
電池フタを開けて単3形乾電池2個を電池ホルダから外して下さい。電池を電池ホルダから外した直後は、静電気や内部に残っている電流により誤動作(誤表示)する場合がありますため、液晶表示に何も表示されていないことを確認してから再度電池を入れて下さい。



注意 種類の違う電池、古い電池と新しい電池などを混ぜて使用しないで下さい。電池の破裂や時計の故障の原因となります。

ご使用方法

- 表示ラベルを剥がす。 ※ラベルを剥がす際に、液晶表示が部分的に黒くなる場合がありますが、静電気による一時的な現象です。しばらくそのままにしておくと、元に戻ります。
 - 電池フタを開けて単3形乾電池2個を⊕⊖の表示に合わせて入れ、電池フタを閉じる。 →「ピッ」と確認音が鳴った後、液晶面が表示され、電波の受信を開始します。
- 受信中は受信マークが点滅します。
 - 受信には最長16分かかります。
 - 受信の結果を確認する。本書「受信の状態について」を参照。
 - 受信に成功すると、受信マークが点灯して自動的に時刻と日付を修正して表示します。
 - 受信に失敗すると、受信マークは消灯します。時刻・日付は修正されません。



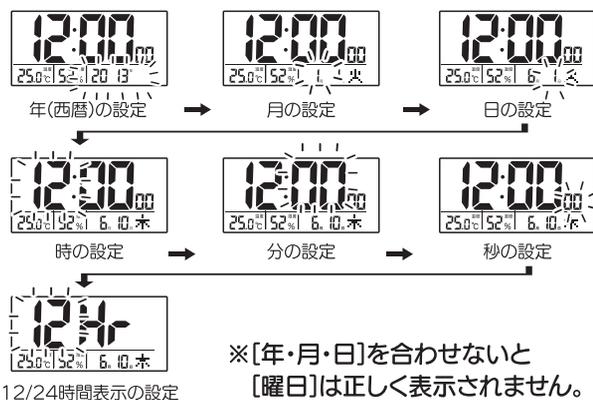
電波受信ができなかった場合は…

- ①手動で時刻を設定し、朝までそのままにしておく
本書「手動で時刻を設定する」を参照して、現在時刻に合わせて時刻を設定し、一晩そのままにしておく。
一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、一晩そのままにしておくと、受信できる可能性が高くなります。
- ②設置場所を変える/受信をやり直す
本書「電波時計について」の「電波を受信しにくい環境」と「手動受信について」を参考に、設置場所を変えて、再度、受信をさせる。
※電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。

手動で時刻を設定する

注意 ※設定中の点滅は約1分以内です。この間に操作を何もしないと点滅が終了して通常表示に戻ります。

- ①アラームスイッチをOFFにして、設定ボタンを2秒以上押し続ける。 →時刻設定モードに入り、画面右下に[年(西暦)]が表示し点滅します。
- ②▲ボタン、▼ボタンを押して[年(西暦)]を設定し、設定ボタンを押す。
- ③設定ボタンを押すごとに[年(西暦)]→[月]→[日]→[時]→[分]→[秒]→[12/24時間表示]が点滅します。▲ボタン、▼ボタンを押してそれぞれを設定し、設定ボタンを押して次の設定に進みます。
※[秒]は▲ボタン、▼ボタンを押すごとに00秒に設定されます。
- ④[12/24時間表示]の設定が終了し設定ボタンを押すと、設定が完了となります。 →点滅が終了し、設定された時刻と日付が表示されて、時刻・日付が表示されます。

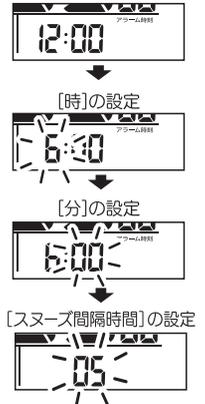


アラーム時刻の設定

注意 ※設定中の点滅は約1分以内です。この間に操作を何もしないと点滅が終了して通常表示に戻ります。

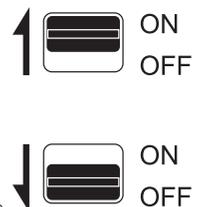
- ①アラームスイッチをONすると、カレンダー表示がアラーム設定時刻に切り替わります。
 - ②設定ボタンを2秒以上押し続ける。 →アラーム時刻設定モードに入り、[時]部分が点滅します。
 - ③▲ボタン、▼ボタンを押して[時]を設定する。
 - ④[時]の設定が終了したら、設定ボタンを押す。 →[分]部分が点滅します。
 - ⑤▲ボタン、▼ボタンを押して[分]を設定する。
 - ⑥[分]の設定が終了したら、設定ボタンを押す。 →[スヌーズ間隔時間]が点滅します。
 - ⑦▲ボタン、▼ボタンを押して[スヌーズ間隔時間]を設定する。(5~60分の間の任意の時間)
 - ⑧[スヌーズ間隔時間]の設定が終了したら、設定ボタンを押す。 →アラーム設定時刻が表示されて、設定が完了します。
- アラーム時刻は[秒単位]の設定はできません。
 - 12時間制表示のとき、[午前]と[午後]を間違えないように注意して下さい。

アラーム設定時刻の表示



アラーム機能の使い方

- アラームを鳴らす
①アラームスイッチをONの位置にする。 →アラームマークが点灯し、設定した時刻になるとアラームが鳴ります。 ●アラームは鳴り始めから約1分後に自動的に止まります。
- アラームを止める
①アラームを完全に止める
アラームスイッチをOFFの位置にする。 →アラームマークが消灯し、アラーム機能が解除されます。
②アラームを一旦止め、再度アラームを鳴らす(スヌーズ機能)
アラームが鳴っている間に本体上部のSNOOZE/LIGHTボタンを押すと、アラームが一止まり、任意設定したスヌーズ間隔時間に再び鳴りだします。
●スヌーズ機能中はスヌーズマークZzが点滅します。
●スヌーズ機能は何回でも繰り返すことができます。
●アラームが再び鳴らないようにするにはアラームスイッチをOFFの位置にします。
- ③アラームとスヌーズ機能を止める。
SNOOZE/LIGHTボタン以外のボタンを押す。 →アラームが鳴り止まり、翌日の設定した時刻まで鳴りません。
●アラームマークは点灯したままです。
- ④アラームを自動的に止める(オートストップ機能)
→アラームは鳴り初めから約1分で自動的に止まり、翌日の設定した時刻になるまで鳴りません。
●アラームマークは点灯したままです。



自動点灯機能について

- 自動点灯スイッチをONにすると、明るさを感知する光センサーによって、周囲が暗くなると自動的にライトが点灯します。
※日中や夜間の照明時などでも、周囲の明るさが不足していたり、光センサー部が影になっていると、ライトが点灯する場合があります。
※ライトを自動点灯させない場合は、自動点灯スイッチをOFFにしてください。
※強い磁気やノイズを発生するものからはなるべく離して設置して下さい。本製品の光センサーと混信し、時計のライトが消灯したり、ちらつきが発生する場合がございます。
- 自動点灯 ON OFF